

水道事業の沿革

(1) 富士宮上水道事業の沿革

ア 創設

昭和7年の大宮町大火の後、消火施設の必要もあり水道事業が計画され、昭和9年8月県知事の認可を得て簡易水道として湧玉池畔に取水井(大宮水源)を作り、大宮棒杭の配水池(大宮配水池)に揚水し、昭和11年9月1日に給水を開始した。

計画給水人口	計画給水量	計画1人1日最大給水量
8,400人	1,260 m ³ /日	150 リットル

イ 第1次拡張事業(昭和32年度～昭和36年度)

既存の水源では激増する水需要に対応することができなくなり、昭和32年上野村と岡り両市村上水道組合(一部事務組合)を設立した。水源を椿沢の湧水に求め、昭和33年1月厚生大臣の認可を得て事業費1億9千百万円で同年4月着手、昭和37年3月に完成した。

この間、上野村は富士宮市と合併し上水道組合は富士宮市上水道と一本化された。

計画給水人口	計画給水量	計画1人1日最大給水量
60,000人	12,000 m ³ /日	200 リットル

ウ 第2次拡張事業(昭和38年度～昭和39年度)

隣接村の合併による給水区域の変更と、配水システムの合理化による有収水量の向上及び減水の解消を図るため、昭和37年12月に厚生大臣の認可を得て翌38年4月事業費1億5千5百万円で着手、昭和40年3月に完成した。

計画給水人口	計画給水量	計画1人1日最大給水量
60,000人	12,000 m ³ /日	200 リットル

エ 第3次拡張事業(昭和42年度～昭和43年度)

富士山麓総合開発計画に伴う水需要の増大が考えられるため、昭和42年3月厚生大臣の認可を得て事業費1億3千万円で貫間及び淀師地内に地下水源を求め、さらに北山広域簡易水道を統合し昭和44年3月完成した。

計画給水人口	計画給水量	計画1人1日最大給水量
80,000人	24,000 m ³ /日	300 リットル

オ 第4次拡張事業(昭和45年度～昭和49年度)

都市の近代化、生活様式の向上と諸産業の発展によって既存の水源では給水に支障をきたす状況となったため、昭和45年3月厚生大臣の認可を得て事業費16億2千万円で北山用水から日量17,970 m³の表流水を水源として取水し、北山字坂下上に浄水場を建設し、北山・山宮・万野等北部地域の給水とともに市中心部の配水量を確保して、昭和50年3月完成した。

計画給水人口	計画給水量	計画1人1日最大給水量
100,000人	40,000 m ³ /日	400 リットル

カ 第5次拡張事業(昭和51年度～昭和55年度)

第4次拡張事業により北山等北部地域及び市街地は一応断減水が解消した。しかし、杉田・小泉・野中と市街地周辺地域の開発が予想以上であり、杉田地区をはじめ再び断減水の兆しがみられてきたため、昭和51年2月厚生大臣の認可を得て事業費20億円で水源を9箇所のおく井に求め、杉田及び潤井川以南地域並びに市街地周辺の急増する人口に対して安定供給を確保し、昭和56年3月完成した。

計画給水人口	計画給水量	計画1人1日最大給水量
125,000 人	56,250 m ³ /日	450 リットル

キ 第1次整備事業(昭和62年度～平成4年度)

第5次拡張事業の計画目標年度の昭和60年度において、実績の1日最大給水量が計画給水量を超えたため、早急に計画給水量を増加する必要に迫られ、昭和62年3月厚生大臣の認可を得て事業費44億円で昭和60年度に取得した水櫛水源を利用し、送配水管を中心とした施設整備を進め市南部地域及び市街地周辺の安定供給を図り、平成5年3月完成した。

計画給水人口	計画給水量	計画1人1日最大給水量
120,000 人	75,000 m ³ /日	625 リットル

ク 第6次拡張事業(平成9年度～平成17年度)

平成7年度末の給水実績は、給水人口108,047人、1日最大給水量61,030m³/日であるが、計画給水区域外である北山工業団地等の工場への需要が見込まれること、給水区域周辺の簡易水道を統合する計画があることから、給水区域の拡張・給水人口の増加・給水量の増加・取水地点の変更(新水源の開発)の必要が生じたため、平成9年8月厚生大臣の認可を得て村山3区簡易水道を統合し、堀之内配水池を築造した。また、市内の簡易水道の統合を進めるよう国・県に指導されるなか、平成14年7月に近鉄不動産富士宮青木平住宅団地簡易水道の居住住民から統合の要望が提出され、協議の結果、厚生労働省へ変更届けを提出し、平成18年度より統合した。

計画給水人口	計画給水量	計画1人1日最大給水量
124,040 人	78,230 m ³ /日	631 リットル

ケ 第7次拡張事業(平成20年度～平成27年度)

平成20年4月、公営の3簡易水道(上井出・猪之頭・白糸)を上水道に統合し、集中管理によるコスト削減を図った。また、水量・水質の不安定な白糸地区への新水源を設置するとともに、安定供給のため淀師水源と笹峯水源の水量の増量を図った。原水からクリプトスポリジウムの指標菌が検出されている猪之頭第3水源・椿沢水源・大宮水源に、水質の向上を図るためクリプトスポリジウム対策として紫外線照射による浄水処理を導入する。

計画給水人口	計画給水量	計画1人1日最大給水量
121,300 人	72,500 m ³ /日	603 リットル

コ 第8次拡張事業(平成25年度～平成34年度)

富士宮市は、平成22年3月23日に芝川町と合併し、行政は一体化されたが、上水道事業は厚生労働省認可の旧富士宮上水道事業と、県認可の旧芝川町上水道事業の1市2事業での運営となっていた。これを解消すべく統合基本構想の策定をし、かつ、民営の1簡易水道、1専用水道の統合までを要件とした水道事業の変更認可を受け、将来への安定給水を見込んだ恒久的な対策を行い、水運用計画や管網整備についても併せて行っていく。

計 画 給 水 人 口	計 画 給 水 量	計画1人1日最大給水量
129,100 人	74,200 m ³ /日	574 リットル



大 宮 水 源

(2) 旧芝川上水道事業の沿革

ア 創設及び拡張事業の推移等

事 業 名	認 可 年 月	目 標 年 次	計 画 給 水 人 口	計 画 1 日 最 大 給 水 量	計 画 1 人 1 日 最 大 給 水 量
	昭和	昭和	人	m ³	リットル
創 設	36.3	46	6,000	1,380	230
第 1 期 拡 張 事 業	44.3	55	6,000	1,380	230
第 2 期 拡 張 事 業	47.3	57	6,000	1,380	230
第 3 期 拡 張 事 業	50.3	60	6,000	1,688	281
第 4 期 拡 張 事 業	平成 9.3	平成 18	9,000	3,920	436
第 5 期 拡 張 事 業	14.3	22	8,700	5,500	632
第 6 期 拡 張 事 業	21.3	29	8,700	5,600	644

※ 平成25年4月1日付けで、富士宮市水道事業に統合される。